



講座のアピールポイント

当科は肺癌、気管支喘息、COPD（慢性閉塞性肺疾患）、呼吸器感染症、間質性肺炎、びまん性肺疾患、肺胞蛋白症、慢性呼吸不全、睡眠時無呼吸症候群を中心とする呼吸器疾患と、自己免疫が関与する関節リウマチ・膠原病、そして食物・薬物・ハチアレルギーなどのアレルギー疾患の3本柱（①呼吸器疾患、②自己免疫疾患、③アレルギー疾患）を対象に専門的な診療・研究を行っています。

日常検査としては、呼気NO測定、肺機能検査、末梢気道抵抗測定、気道過敏性試験、胸部X線検査、胸部CT、MRI、気管支内視鏡検査、経気管支肺生検、ガイドシース併用気管支内腔超音波診断（EBUS-GS）、超音波ガイド下経気管支生検（EBUS-TBNA）、経気管支凍結肺生検（クライオ生検、TBLC）、CTガイド下経皮的肺生検、外科的肺生検（SLB）、シンチグラム、アプノモニター（簡易型睡眠時無呼吸診断）、睡眠ポリソムノグラフィー測定記録・自動解析、血管造影検査など高度な検査を実施し、診療・研究の向上を目指しています。肺癌診療では、免疫チェックポイント阻害薬治療に関してPD-L1発現を評価し、遺伝子診断においては、マルチプレックス検査（オンコマイン：ODx TTやAmoy Dx）を行い診断率の向上と最適な治療法を選択しています。

当科は研究・教育機関としての大学病院の役割を果たしつつ、患者診療においても最善・最良・最新の医療を提供すべく邁進させて頂いております。

講座研究紹介

●肺癌

他施設との共同研究にて、①アジア人の非小細胞肺癌における個別化医療の確立を目指した、遺伝子スクリーニングとモニタリング研究（LC-SCRUM-Asia）、②Cell free DNAを用いたNGSによるmultiplex遺伝子解析の有効性に関する研究を行っています。臨床研究では①切除不能な進行・再発非小細胞肺癌患者に対するアテゾリズマブ療法との多施設共同研究（J-TAIL）、②J-TAIL-2、③切除後の非小細胞肺癌に対するアテゾリズマブ術後補助療法の多施設共同研究（J-CURE）、④EGFR遺伝子L858R変異陽性進行再発非扁平上皮非小細胞肺癌に対するRamucirumab+Erlotinibの有効性及び安全性を評価する多施設共同研究（REAL-SPEED）等に参加し肺癌診療の向上に貢献しています。

●気管支喘息、COPD

以下のような臨床研究、①気管支喘息、COPDおよび、ACOにおけるVDBP（vitamin D binding protein）の検討、②気管支喘息、COPDおよび、ACにおけるバイオマーカーと遺伝的背景の検討を行い、これら疾患の鑑別に有用なマーカーの検索を行っています。③気管支喘息患者におけるステロイド薬の骨密度に対する経年的な影響を検討した結果、骨密度低下に対する吸入ステロイド薬の影響は少ないことも明らかにしました。④気管支喘息における抗エラスチン抗体の役割について検討した結果、本抗体は気道リモデリングに関与し、抗エラスチン抗体の制御が喘息治療に貢献できる可能性が示唆されました。

●間質性肺炎

①特発性間質性肺炎に対する多施設共同研究（NEJ030）に参加しており、本疾患の長期的な治療経過と疾患の予後を明らかにしようとしています。②胸部CTで巨大嚢胞の形成を認め、上葉優位型肺線維症（PPFE）と病理診断された症例の解析、③肺胞蛋白症に対する全肺洗浄術における体位の違いによる安全性の検討を行っています。④動物モデルにてブレオマイシン誘発肺線維症マウスにおける抗線維化薬であるニンテダニブおよびステロイド治療について検討した結果、肺線維化抑制にはニンテダニブの投与時期が重要であることが示唆されました。

●関節リウマチ・膠原病

①関節リウマチに伴う間質性肺疾患の悪化に関与する因子の網羅的検討、②リウマチ・膠原病における新型コロナウイルス感染症（COVID-19）レジストリ“Rheumatology COVID-19 Registry”を利用した多施設共同研究などを行っています。

●アレルギー疾患

①食物アレルギーマウスモデルの作成とTreg細胞の制御機能の解析、②アレルゲン特異的マウスアレルギーモデルを用いたIL-4およびIL-13の影響の解析、③ミツバチ毒に感作された養蜂家のハチ刺傷におけるアナフィラキシー発症予測因子の探索などについての研究も行っていきます。

当科の医局メンバーの集合写真です。

